

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 および お問合せ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 <a href="http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html">http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html</a> ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社  
連絡先 〒137-8650  
東京都江東区塩浜二丁目8番18号  
日本証券代行株式会社 代理人部  
電話 0120-707-843(通話料無料)

## ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。

KANEFUSA

株主・投資家の皆様へ  
第64期報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日





## 「生き残りをかけた挑戦」の先に目指すのは、カネフサ流グローバル・スタンダード

世界中の「いいモノを作りたい」という企業のそばに、必ずカネフサがいる、そんな状況をつくりたい。

取締役社長 渡邊 将人

### 当期(2012年3月期)の業績についてお聞かせください。

リーマン・ショックによる業績の落ち込みから立ち直り、これからという矢先に大震災による経済混乱があり、そこに理屈では割り切れない超円高が続くという、非常に厳しい経営環境が続いた1年でした。そうした状況の中、増収増益の結果を出すことができたことは、社員の努力の賜物だと思います。国内では復興需要による住宅建設などに伴い住宅関連刃物が増加、インフラの回復とともに非住宅関連刃物も増加しました。海外では欧州や米国、アジアの各市場で金属切断用丸鋸などが堅調でした。この結果、2012年3月期の売上高は連結ベースで148億9百万円(前年同

期比8.2%増)、営業利益は9億9百万円(同49.3%増)経常利益は10億1千3百万円(同108.7%増)となっています。

### 各国・各エリアそれぞれの状況をお聞かせください。

インドネシアは2010年度のスライキの後遺症からようやく抜け出し、現状では約9割の稼働率まで復旧、人員もほぼスライキ前の状態に戻りました。騒動の中、会社に残ってくれた現地社員を中心に、団結力はむしろ高まった感があります。2012年10月をめぐりに工場を増設、製品ラインナップを増やしつつ、一貫生産体制を敷くことでリードタイムの短縮と生産コストの削減を図って

いきます。

米国では金属切断用丸鋸などが増加したものの、製本紙工用刃物などは減少しました。自動車産業を筆頭に本格的な景気回復には未だ至らずといった情勢ではありますが、再研磨事業が順調に進んでいることもあり、新社屋に移転して営業体制を強化していきます。

欧州では金属切断用丸鋸や木工用丸鋸が増加しました。EU全体が金融危機に見舞われている中、結果が出せたのは、スタッフの営業力に負うところが大きいと思います。

中国では、金属切断用丸鋸や木工用丸鋸、製本紙工用刃物が伸びています。中国の全体的な急成長は一服し、企業の淘汰が進んでいる状況ですが、品質重視の傾向が強まっています。これは、当社にとって追い風であり、天津にも営業拠点を設立、2012年4月には再研磨事業をスタートしています。

インドは再研磨を中心に拠点展開して3年目となります。なかなか計画どおりには進んでいませんが、成長市場であることは間違いないので、今は我慢の時期と考えております。

ブラジルは税制面など難しい国情に手間取ってはいますが、成長性は感じていますので、着実にカネフサブランドの浸透を進めていきます。

### 中期経営計画の1年目を振り返って、その手応えはいかがでしょう？

中期経営計画の指標として海外売上高比率、海外生産高比率の目標を設定しましたが、初年度はほぼ計画通りとなりました。中国、インドネシアを中心に設備投資を積極的に行い、生産力は相対的に高めることができたと思いますし、営業という側面でも、各工

場で結果は出せています。

同時に、それぞれのエリアでの「次に解決すべき課題」も見えてきています。たとえば中国では、インフラ整備を中心に当社の製品に対する高いニーズがあるのに十分な掘り起こしができていません。こうした課題を把握できているという点で、中期経営計画のテーマに掲げた「生き残りをかけた挑戦」にはっきり手応えを感じています。この手応えが本物かどうか、この1年が勝負の年だと思っていますが、2013年3月期に計画どおりの成果を出せれば、リーマン・ショックからの本当の回復を果たせると思います。

東日本大震災の復興事業の遅れの影響などもあり、国内の市場は不透明感が大きいので、海外市場での躍進はカネフサが継続的に成長していくための必須条件となります。そのためにも、現地での人材育成は極めて重要と考えています。それぞれのエリアで、「カネフサのものづくり」の本質を理解している人材を育て、「いいモノを作りたい」という企業のそばには、必ずカネフサがいるという状況をつくる。それが、カネフサならではのグローバル・スタンダードの形であり、日本のカネフサ本社の役割だと思っておりますので、引き続き陣頭指揮を執ってまいります。

### 最後になりましたが、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

おかげさまで業績は順調に回復しております。2013年3月期の計画を予定どおりに進行させることで、増配に向けて努力してまいります。



# 生き残りをかけた挑戦

『生き残りをかけた挑戦』と厳しい表現ではありますが、兼房グループが更なる飛躍を成し遂げるために、グループ社員が一丸となって取り組んでいこうという意味を表すとともに、刃物のトップメーカーとして兼房グループの意気込みを表現した言葉です。持てる経営資源を最大限に活かし、世界が認める『真のグローバル企業』となるため、中期ビジョン・経営目標を達成していきます。

1  
中期ビジョン

兼房グループ2013年度  
売上高177億円の実現

2  
中期ビジョン

グローバル生産  
分業体制の確立



## グローバル展開の進捗

### 天津に営業拠点を新設

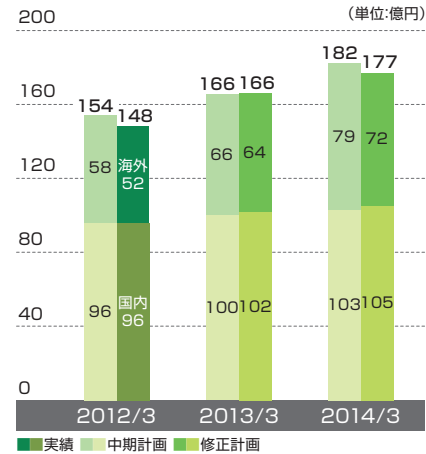
天津分公司は、「昆山兼房高科技刀具有限公司」の華北地区の営業支社として、2011年11月に天津開発区に設立し、その後、再研磨センターも併設して、2012年4月からは丸鋸を中心とした再研磨事業も開始しました。

天津地区は、華北地区でも自動車部品や鋼管メーカーが密集する地域であり、また大手集成材メーカーにも近く、天津分公司はその地の利を生かして、金属切断用の「FMコールドソー」や「走行切断機用コールドソー」、また集成材切削用の「マイクロフィンガーカッター」など、当社独自技術を用いた顧客価値の高い製品群の普及と、その再研磨サービスを通じて、今後華北地区の占有拡大を加速させます。

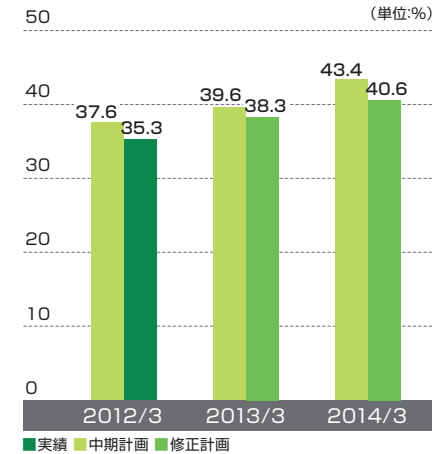


## 経営目標

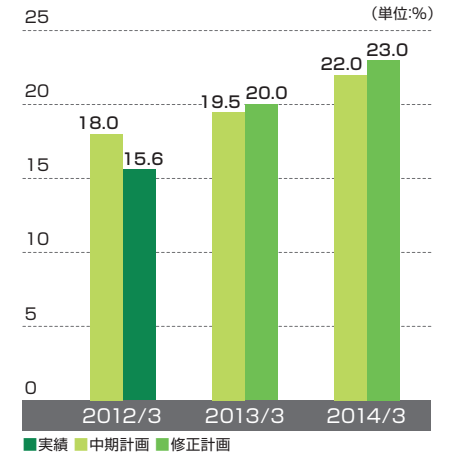
### ●売上高



### ●海外売上高比率



### ●海外生産高比率



## 中期経営計画の数値目標

中期経営計画に基づき、事業部と営業部の協業体制のもと、戦略的なマーケティングを継続的に実施して、グローバル市場での販売拡大を図ります。

	2012/3		2013/3		2014/3	
	計画	実績	計画	修正計画	計画	修正計画
売上高	15,410	14,809	16,570	16,560	18,220	17,700
国内	9,610	9,581	10,010	10,210	10,310	10,510
海外						
アジア	2,970	2,907	3,260	3,480	3,920	3,900
アメリカ	1,010	860	1,190	1,040	1,460	1,195
ヨーロッパ	1,620	1,268	1,870	1,640	2,230	1,880
その他	200	192	240	190	300	215
営業利益	1,360	909	1,710	1,670	2,030	1,890
経常利益	1,360	1,013	1,710	1,680	2,020	1,910
当期純利益	830	490	1,040	1,030	1,240	1,210

## 事業別売上高計画

顧客ニーズに合致した高QCDモノづくりの実現とコスト競争力強化のため、本社工場と海外生産拠点との最適分業体制を確立し計画を推進します。

	2012/3		2013/3		2014/3	
	計画	実績	計画	修正計画	計画	修正計画
平刃事業	5,220	5,027	5,550	5,450	6,170	5,700
カッター事業	3,600	3,482	3,730	3,840	3,890	3,970
丸鋸事業	6,350	6,104	7,030	7,090	7,850	7,820
その他	240	195	260	180	310	210
合計	15,410	14,809	16,570	16,560	18,220	17,700

# 展示会への出展を通じて、 カネフサブランドを世界にアピール

業界の動向を見極め、ユーザーの生の声をお聞きするため、カネフサは国内外で開催される各種の産業展へ積極的に出展しています。また、技術の発展には新しい素材の開発や新しい加工方法の開発が不可欠と考え、展示会では、来場者はもとより、関連の加工機械メーカーとのコミュニケーションの強化を図っています。

## ●展示会出展実績

開催月	展示会名 / 開催国
2011年 4月	●第二届中国国際印刷技術展覧会(印刷機材展) …… 中国
5月	●METAL TECH 2011(工作機械展) …… マレーシア
	●LIGNA 2011(木工機械展) …… ドイツ
9月	●IGAS 2011(印刷機材展) …… 日本
	●メカトロテック・ジャパン 2011(工作機械展) …… 日本
	●EMO Hannover 2011(工作機械展) …… ドイツ
	●第7回 上海国際鋼管工業展覧会(鋼管産業展) …… 中国
10月	●JAPAN PACK 2011(包装機械展) …… 日本
	●IPF 2011(プラスチック・ゴム総合展) …… 日本
11月	●第40回 名古屋国際木工機械展(木工機械展) …… 日本
12月	●METALEX 2011(工作機械展) …… タイ
2012年 1月	●IMTEX 2012(工作機械展) …… インド
3月	●TUBE 2012(鋼管産業展) …… ドイツ

**第7回 上海国際鋼管工業展覧会**  
(中国・上海)

開催期間	2011年9月26日～28日
出展社数	800社
来場者数	50,000人
分野	鋼管産業展

**EMO Hannover 2011**  
(ドイツ・ハノーバー)

開催期間	2011年9月19日～24日
出展社数	2,037社
来場者数	140,000人
分野	工作機械展

**LIGNA 2011** (ドイツ・ハノーバー)

開催期間	2011年5月30日～6月3日
出展社数	1,765社
来場者数	90,000人
分野	木工機械展

**IMTEX 2012** (インド・バンガロール)

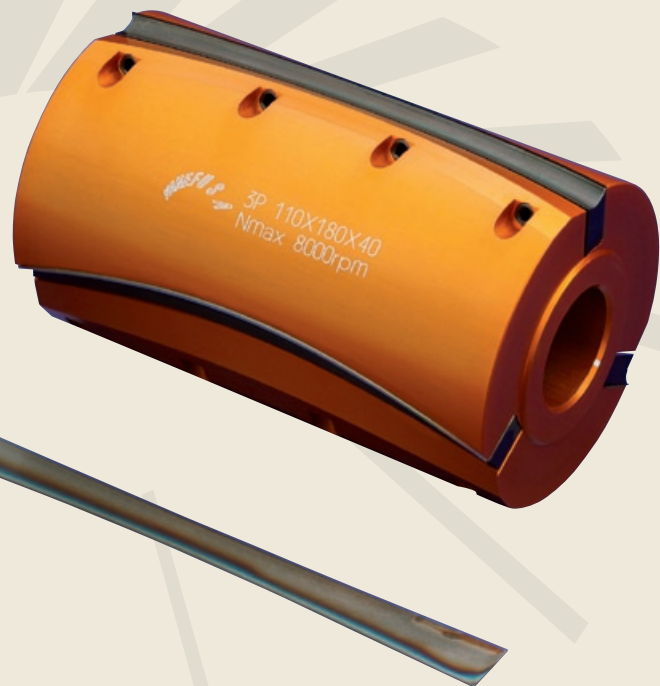
開催期間	2012年1月19日～24日
出展社数	814社
来場者数	92,500人
分野	工作機械展

**第40回 名古屋国際木工機械展**  
(日本・名古屋)

開催期間	2011年11月2日～5日
出展社数	130社
来場者数	12,200人
分野	木工機械展

**METALEX 2011** (タイ・バンコク)

開催期間	2011年12月21日～24日
出展社数	2,700社
来場者数	68,000人
分野	工作機械展



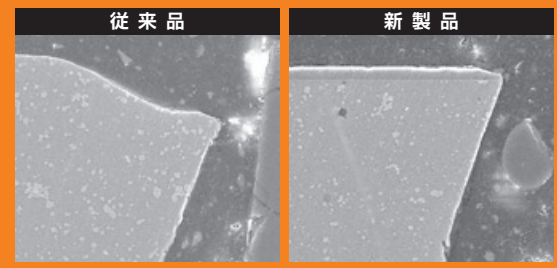
## UFormer Cutter (技術優秀賞受賞)

- ▶ 刃先を鋭利な状態に保つ特殊コーティング
- ▶ 高い加工品質を可能としたU形状の替刃
- ▶ わずか0.5mmの刃厚で長寿命化を実現

昨年11月に開催された第40回 名古屋国際木工機械展において、当社が開発した『UFormer Cutter』が技術優秀賞を受賞しました。当社として7回連続の受賞となります。改めて『技術のカネフサ』をアピールすることができました。

『UFormer Cutter』は、主に木材の平削りに使用され、刃厚0.5mmの薄刃をU形状に湾曲させて鉋胴に差し込む、斬新な形状によるモルダール用鉋胴です。刃全体をU形状に湾曲させた形で使用することで、高い加工品質や切削騒音の低減を実現します。また、薄刃に特殊なコーティングを施すことにより、刃物が摩耗しにくくなり、刃先を鋭利に維持することができるため、大幅な長寿命化を実現しました。

使用後の刃先摩耗状態



## Ti-4PT SUS ステンレスパイプ切断用丸鋸

- ▶ 長寿命化を可能としたステンレスパイプ切断用特殊コーティング
- ▶ 高品質な切断を可能とした最適な刃型・刃数およびチップ材種を採用

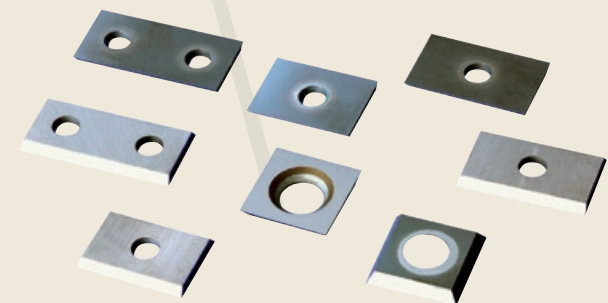
高品質な切断が困難であった薄肉ステンレスパイプ用FMコールドソーとして刃型・刃数およびチップ材種を最適化することで、変形やバリの少ない切断を可能としました。また、ステンレス専用のコーティングを施すことにより、安定した長寿命化が得られます。



## U-PⅡ コーティング替刃

- ▶ 耐摩耗性と耐腐食性が向上した新コーティング
- ▶ 加工面の毛羽立ちを抑制
- ▶ グリーン材(含水率の高い木材)の切削に最適

プレカットの集成材およびムク木材切削において、コーティング性能をさらに進化させ、工具の長寿命化を実現しました。コーティングにより鋭利な刃先形状が持続するため、消費電力の削減効果があります。また、新たなコーティング技術によって耐食性を向上させ、含水率の高い木材の加工にも耐久性を発揮します。



加工面の毛羽立ちを抑制し美しい仕上がりに



概況

当連結会計年度における世界経済は、米国経済にやや明るい兆しが見られたものの、欧州の債務問題、中東の原油供給・価格に対する懸念、また、これまで堅調に推移してきた中国をはじめとする新興諸国の成長減速など、先行き不透明な状態となっております。

一方、わが国経済は、東日本大震災による生産・輸出の大幅な落ち込みからは回復しつつありますが、円高の長期化、世界経済の減速懸念など、依然として厳しい状況で推移いたしました。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業では、新設住宅着工戸数は回復の兆しは見られるものの、依然低調に推移しております。また、自動車関連産業では、東日本大震災や平成23年10月のタイでの洪水被害などにより一時的に影響は出たものの、その

後、回復傾向で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、木工用丸鋸やダイヤ製品などが増加し、住宅関連刃物、非住宅関連刃物ともに堅調に推移いたしました。一方、海外での売上は、欧州、米国およびアジア市場などにおいて金属切断用丸鋸などが順調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度における売上高は148億9百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

利益

利益面につきましては、円高による採算悪化や、既に終結しておりますが、インドネシア連結子会社におけるストライキに伴い、日本への生産移管による原価コストアップ要因があったものの、売上高の増加により、営業利益は9億9百万円（前年同期比49.3%増）となりました。また、年度末にかけて為替が急激に円安に戻ったことおよびグループ間取引消去における換算レート差などにより、営業外収益で為替差益9千4百万円を計上し、経常利益は10億1千3百万円（前年同期比108.7%増）となりました。当期純利益は、特別損失で投資有価証券評価損3千9百万円を計上したことなどにより、4億9千万円（前年同期比70.3%増）となりました。

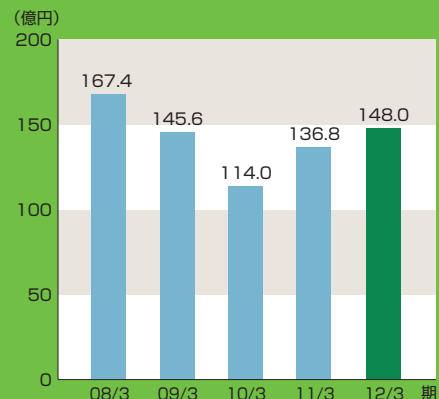
来期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、世界経済は依然不透明な状況が続いており、わが国においても緩やかな景気回復が見込まれるものの、先行きは依然として予断を許さない状況が続くものと思われれます。

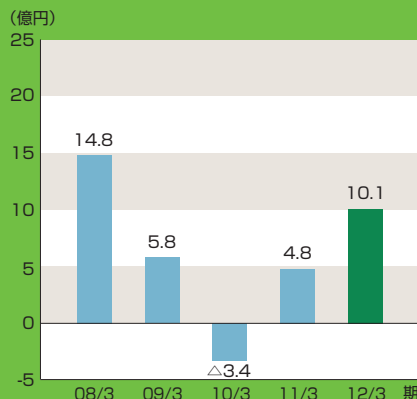
このような状況の中で、当社グループはさらなるグローバル化を推進し、海外生産・売上の拡大を図るとともに、グループ全体での製造原価低減と全般的な経費削減による収益構造の強化を継続的に進めてまいります。

来期の連結業績見通しとして、売上高は165億6千万円、営業利益16億7千万円、経常利益16億8千万円、当期純利益10億3千万円を見込んでおります。

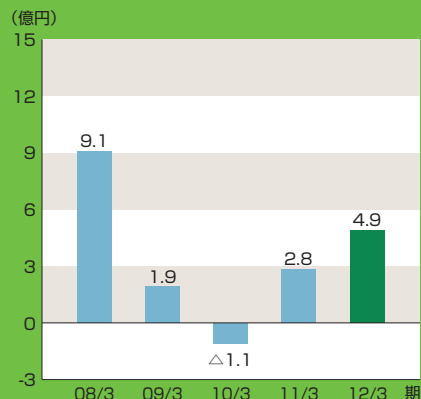
売上高



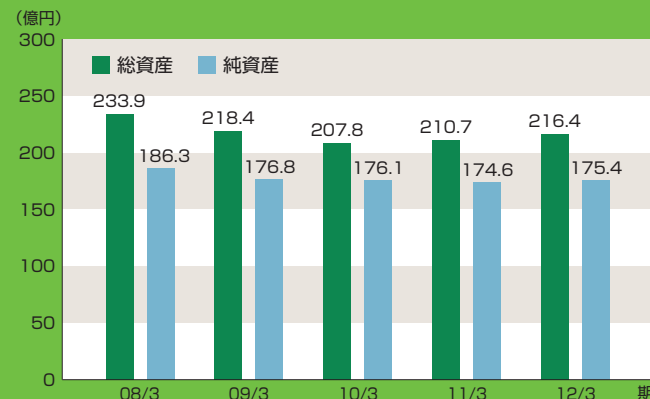
経常利益又は経常損失(△)



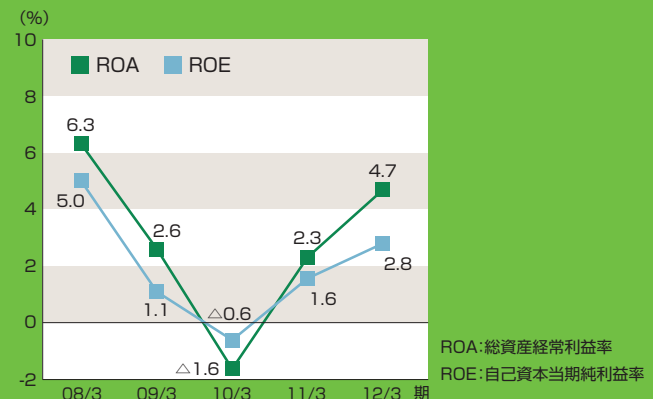
当期純利益又は当期純損失(△)



総資産・純資産



ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率  
ROE:自己資本当期純利益率

総資産

現金及び預金が5千2百万円、原材料及び貯蔵品が1億9千7百万円、それぞれ増加し、また、有形固定資産が4億6千8百万円増加、投資その他の資産が1億4千1百万円減少したことなどにより、前期末と比べ5億6千2百万円増加の216億4千万円となりました。

負債

支払手形及び買掛金が1億2千4百万円増加し、流動負債その他が未払金の増加により3億6千3百万円増加したことなどにより、前期末と比べ4億7千8百万円増加の40億9千4百万円となりました。

純資産

利益剰余金が3億2百万円増加し、その他の包括利益累計額が2億1千7百万円減少したことにより、前期末と比べ8千4百万円増加し175億4千5百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の82.8%から81.1%となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成24年3月31日現在	平成23年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		12,165,285	11,906,648
固定資産		9,475,094	9,171,027
<b>資産合計</b>		<b>21,640,380</b>	<b>21,077,675</b>
(負債の部)			
流動負債		3,378,187	2,848,896
固定負債		716,457	767,618
<b>負債合計</b>		<b>4,094,645</b>	<b>3,616,515</b>
(純資産の部)			
株主資本		17,973,900	17,671,555
その他の包括利益累計額		△428,164	△210,395
<b>純資産合計</b>		<b>17,545,735</b>	<b>17,461,160</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>21,640,380</b>	<b>21,077,675</b>

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
売上高		14,809,967	13,681,376
売上原価		9,906,431	9,277,597
売上総利益		4,903,535	4,403,779
販売費及び一般管理費		3,994,512	3,795,042
営業利益		909,023	608,736
営業外収益		142,013	52,473
営業外費用		37,443	175,575
経常利益		1,013,592	485,634
特別利益		2,363	1,756
特別損失		49,324	46,242
税金等調整前当期純利益		966,632	441,148
法人税等		476,055	153,021
少数株主損益調整前当期純利益		490,577	288,126
当期純利益		490,577	288,126

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,578,051	1,210,763
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,199,669	△863,703
財務活動によるキャッシュ・フロー		△208,511	△208,571
現金及び現金同等物に係る換算差額		△32,188	△84,803
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		137,682	53,686
現金及び現金同等物の期首残高		3,168,711	3,115,024
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		22,304	—
現金及び現金同等物の期末残高		3,328,698	3,168,711

連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
<b>当期首残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,569,585	△208,420	17,671,555	194,046	△404,442	△210,395	17,461,160
当連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△208,511		△208,511				△208,511
当期純利益			490,577		490,577				490,577
連結範囲の変動			20,279		20,279				20,279
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						1,885	△219,654	△217,769	△217,769
<b>当連結会計年度中の変動額合計</b>	—	—	302,344	—	302,344	1,885	△219,654	△217,769	84,575
<b>当期末残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,871,930	△208,420	17,973,900	195,931	△624,096	△428,164	17,545,735

貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成24年3月31日現在	前期 平成23年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	10,233,347	10,494,020
固定資産	10,934,510	10,127,972
<b>資産合計</b>	<b>21,167,858</b>	<b>20,621,993</b>
(負債の部)		
流動負債	3,292,585	2,818,608
固定負債	645,422	752,917
<b>負債合計</b>	<b>3,938,008</b>	<b>3,571,525</b>
(純資産の部)		
株主資本	17,033,918	16,856,420
評価・換算差額等	195,931	194,046
<b>純資産合計</b>	<b>17,229,849</b>	<b>17,050,467</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>21,167,858</b>	<b>20,621,993</b>

損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで	前期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	13,720,658	12,937,926
売上原価	9,594,975	9,243,800
売上総利益	4,125,683	3,694,126
販売費及び一般管理費	3,312,381	3,201,936
営業利益	813,302	492,190
営業外収益	69,007	53,879
営業外費用	49,788	250,700
経常利益	832,521	295,369
特別利益	3,795	19,569
特別損失	49,733	46,999
税引前当期純利益	786,583	267,940
法人税等	400,574	130,080
当期純利益	386,009	137,859

株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
<b>当期首残高</b>	2,142,500	2,167,890	12,754,450	△208,420	16,856,420	194,046	17,050,467
当事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△208,511		△208,511		△208,511
当期純利益			386,009		386,009		386,009
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)						1,885	1,885
<b>当事業年度中の変動額合計</b>	-	-	177,497	-	177,497	1,885	179,382
<b>当期末残高</b>	2,142,500	2,167,890	12,931,948	△208,420	17,033,918	195,931	17,229,849

# Information

会社概要

(平成24年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	568名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA. 大口サービス株式会社

株式の状況

(平成24年3月31日現在)

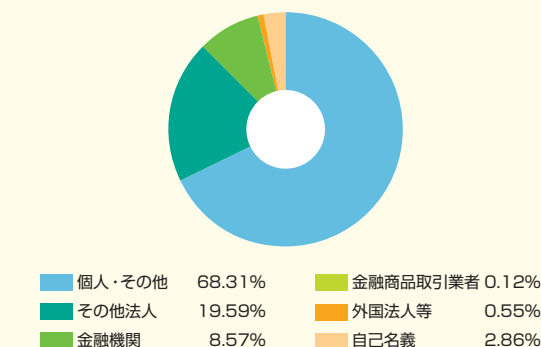
発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,811名

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,210	8.7
太田 万佐子	1,171	8.4
兼房従業員持株会	949	6.8
渡邊 美奈子	805	5.7
渡邊 浩	743	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	560	4.0
渡邊 将人	426	3.0
太田 正志	396	2.8
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



役員

(平成24年6月27日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	春日 晃
専務取締役	太田 正志	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	平子 哲朗	取締役	石田 信之
常務取締役	西尾 悟	取締役	山川 寿康
常務取締役	藤吉 芳久	常勤監査役	柳瀬 敏行
常務取締役	鈴木 仁	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊